

1 ページ

発言要旨		県での取組状況、今後の方針	
第1回部会で委員からの発言があった方向性 第1回部会で委員からの発言がなかった方向性		→ →	発言に関連する取組の状況や今後の方針を記載しています。 参考情報として、主な取組内容を記載しています。
◆コンテンツの質と価値の向上		【誘客推進課】	
・冬季・インバウンド誘客による繁閑差の解消は重要であるが、冬季以外の既に観光客が来ている時期に「稼ぐ」体制づくりができていないかという視点も必要である。イベントがない時期でも、常時楽しめる秋田の魅力の発信が不可欠である。		・本県の観光事業者は、冬期間に観光客数が落ち込む問題を長年抱えていることから、5年度から7年度にかけて冬の大型観光キャンペーンを展開し繁閑差の解消に取り組んでいるが、7年度からは冬季と同様に閑散期となるグリーンシーズンにおけるデジタルプロモーションや体験型コンテンツの開発に着手することとしている。	
・竿燈祭りのように既に人を呼び込む力を持つコンテンツを磨き上げるのではなく、経済効果として伸びしろがあるコンテンツの磨き上げを行うべきである。観光産業の成長のためには、ビジネスとして成立するのかという視点が必要である。		・県内事業者と連携し500を超える特別企画を用意して、冬の大型観光キャンペーンを展開した。その中には秋田が誇るキラコンテンツを活用した「秋田犬の散歩」などキラリと光る体験型コンテンツがまだまだ眠っている。市町村、観光協会やDMO等と、こういったコンテンツを新たに掘り起こし、観光事業者と連携して磨き上げていきたい。	
・秋田が距離的に「行きにくい場所」という認識は、ポジティブな要素として活用できるのではないか。「今しか見られないかもしれない」という、消滅の危機にある文化を観光コンテンツとして取り上げ、その希少性を活かした誘致方法も検討すべきである。		・八幡平ドラゴンアイはこの時期しか見られない観光地として多くの観光客が訪れている。また、本県を訪れるインバウンドの多くは角館の武家屋敷や秋田犬関連のスポットを訪れており、それらの影に隠れてまだ知られていないSNS映え度抜群の田沢湖でのSUPやテントサウナなどのアクティビティなどについても発信していく予定。さらに、西馬音内の盆踊りや花輪祭りの屋台行事など、本県の重要無形民俗文化財の数は日本一を誇っており、これらの情報についても併せて発信していく。	
施策の方向性③ 時代の変化を捉えた秋田ならではのツーリズムの推進			
◆地域資源を活用した誘客の推進		【誘客推進課】【自然保護課】	
・なまはげや竿燈などの伝統芸能、文化について、パフォーマンスの部分だけでなく、五穀豊穡や祈りなど、その原点となった部分、文化の継承についても大事にしながら秋田の魅力としてPRすべきである。伝統芸能のパフォーマンス部分のみが取り上げられていると感じられる現状を改善し、その文化的背景やストーリーを伝えることが重要である。 いつでもどこでも観光客が喜ぶからと見せていると、自ら大切な文化を安売りしてしまうことにつながるのではないかと懸念する。		・白神山地の価値を知ることができる白神山地世界遺産センター藤里館、竿燈祭りを体験できその歴史に触れることができる ねぶり流し館、なまはげの風習や歴史のミステリーを伝える なまはげ館・伝承館、マタギ文化を継承する現役猟師の体験話を聞いたりするマタギの語りべなど、本県の歴史や文化を体験できる様々なコンテンツがあり、食を含め、文化を守りつつどう発信して、高付加価値を付けて売っていくのか検討していく。	
・白神山地をはじめとした県境の観光地については、県をまたいでの魅力発信を含め、他県との連携を図っていく必要があるのではないか。		・白神山地エリアでの自然観察、トレッキング、シライチ（白神の自然やストーリーを楽しむ一周サイクルルート）を活用したサイクルイベントや情報発信等を青森県と連携することも視野に検討しているほか、鳥海エリアは、国定公園周辺地域の観光資源開発に関する施策を共同で推進することを目的に鳥海国定公園観光開発協議会を置き、県、由利本荘市、にかほ市、山形県、酒田市、遊佐町と民間企業（モンベル）が連携して登山イベント、ジャパンエコトラックの検討や登山道や指導標点検等を実施している。	
		・世界自然遺産白神山地の魅力を来訪者に伝える「あきた白神認定ガイド」の育成を図るほか、白神エリアで体験可能なアクティビティ等の情報をまとめたデータベースサイトによる情報発信を強化することにより、エコツーリズムなど白神エリアの利活用を促進する。	
		・自然公園については、豪雨により被災又は老朽化した施設の改修や美化清掃活動の推進により、豊かな自然環境を保全しつつ来訪者の利活用を促進する。	

3 ページ

発言要旨		県での取組状況、今後の方針	
第1回部会で委員からの発言があった方向性 第1回部会で委員からの発言がなかった方向性		→ →	発言に関連する取組の状況や今後の方針を記載しています。 参考情報として、主な取組内容を記載しています。
目指す姿2：「美酒・美食のあきた」の創造			
施策の方向性① 消費者ニーズを捉えたオリジナル商品の開発と秋田の「食」のブランド化			
◆戦略的なブランディングの促進 ・秋田の商品については、内容やその魅力に関しての説明が足りていないと感じている。商品の質だけでなく、その質をどのように紹介するかも考える必要がある。		【食のあきた推進課】 ・各種物産展や東京アンテナショップ「あきた美彩館」では、県内事業者等が実際に売り場に立ち、一般消費者らに対して商品の魅力や特徴等を説明しながら販売できる機会を提供しているほか、県公式Instagramでは、定期的に県産食品の写真とともに魅力等の発信を継続している。今後も、事業者に対し、売込みの機会を提供していくほか、県の特産品開発コンクール「あきた食のチャンピオンシップ」にて入賞した商品についても売込みの機会を創出することにより、積極的なPRを行う。	
施策の方向性② 食品製造業の振興			
なし		【食のあきた推進課】 ＜主な取組内容＞ ・食品産業の生産性向上や営業力強化に必要な講座等を実施することにより人材育成を支援するほか、デジタル技術を活用して食のリーディングカンパニーを目指す事業者が行う新商品開発等への取組に対して支援を実施している。	
施策の方向性③ 多様な流通チャンネルを活用した県産食品の販売の促進			
◆販路拡大支援の多様化と情報発信の強化 ・販路拡大支援は国内外それぞれで展開する必要がある。海外市場を目指す企業には現地訪問支援、国内市場にはマッチング商談会の機会創出など、各事業者の狙いやニーズを捉えた取り組みを進めるべきである。 ・新しく開設された県産食品紹介ウェブサイト「千彩万食」は、県外の飲食店などのバイヤーにも積極的にPRし、多くのバイヤーに見てもらえるようにする必要がある。このウェブサイトは各事業所にとってビジネスチャンスにつながる可能性があるため、今後も活用を推進すべきだ。 ・県産食品紹介ウェブサイト「千彩万食」を拝見したが、とても見やすく良質なウェブサイトであると感じた。県外へのアプローチはもちろんのこと、県内でも観光事業所や宿泊事業所に向けてぜひ広く発信をしてほしい。		【食のあきた推進課】 ・海外展開については、酒蔵が直接、現地での展示会及び商談会に参加できる機会を提供するとともに、訪問できるよう支援するほか、国内市場向けにはマッチング商談会を開催するなど、各事業者のニーズを捉えて実施していく。 ・県産食品のプラットフォームである「千彩万食」について、企業訪問や商談会等を通じてPRを行うことなどにより、県外バイヤー等との商談機会の増加を図るほか、県内事業者の参加を促すことにより、活用を促進する。 ・関係部局との連携を一層強化し、積極的に本ウェブサイトの活用を働きかけることで、食と観光の相乗効果を生み出してまいりたい。	
施策の方向性④ 秋田の「食」の魅力の発信と誘客への活用			
◆観光分野と連携したプロモーションの実施 ・秋田県の発酵食品プロモーションは5年以上実施されているが、秋田の加工食品の差別化には至っていないと感じられる。そのため、このプロジェクトは一定の役割を終えたと整理し、発酵食品以外のアプローチ方法や売り込み方を検討する段階に来ているのではないかな。 ・秋田県内には豊富な湧き水があり、これを食品づくりに活用するだけでなく、食や食材をプロモーションする際に、その背景に豊かな美しい水があることなど、背景やストーリーを含めて魅力を伝えれば、高付加価値化につながる可能性があるのではないかな。 ・JR秋田支社で昨年作成した「あきたの北のほうスイーツマップ」は、お客様が手に取り持って帰る姿が多くみられた。紙媒体からデジタルへ以降している社会情勢ではあるが、一方で紙媒体での発信の必要性もまだ感じるところである。		【食のあきた推進課】 ・秋田県には独自の発酵文化があり、日本酒を始めとする様々な発酵食品を「あきた発酵ツーリズム」として発信してきた。発酵食品は、本県を代表する加工食品であることから新たなアプローチを検討するほか、「食のチャンピオンシップ」などにより、新たな商品開発を支援してまいりたい。 ・これまでも県産品の商品の背景やストーリーをプロモーションしてきたが、今後はさらに、高付加価値化に繋がる視点で効果的な商品の背景やストーリーを消費者に伝えていきたい。 ・紙媒体については、手軽さ、手に取りやすい特徴により、きっかけ作りに活用し、一方で詳細で最新の情報はウェブサイトやSNSで補完するといった役割分担により、両方の特性を生かした効果的なプロモーションを行ってきたい。	

発言要旨		県での取組状況、今後の方針	
第 1 回部会で委員からの発言があった方向性		→	発言に関連する取組の状況や今後の方針を記載しています。
第 1 回部会で委員からの発言がなかった方向性		→	参考情報として、主な取組内容を記載しています。
目指す姿 3：文化芸術の力による魅力ある地域の創生			
施策の方向性① あきた芸術劇場を核とした文化芸術の発信とにぎわいづくり			
◆秋田の文化芸術の明確化と発信		【文化振興課】	
・秋田には無形文化財がたくさんある中で、秋田の文化・芸術として何を情報発信していくべきか、検討の余地がある。解像度を上げて、どこに優先順位をつけて展開していくべきか考える必要がある。		・国指定重要無形民俗文化財など本県ならではの文化や、県内での文化芸術に関する取組について、県内外に魅力が伝わるよう、素材や発信方法を精査しながら取り組んでいく。	
◆ミルハスの文化的価値		【文化振興課】	
・ミルハスの素晴らしさは、ミルハスがあることによって秋田市の中心部が格式高く文化が交わるまちになり、若者にとって「ここだったらこのまま住み続けてもいいかもしれない」と思えるような文化的な価値を生み出していることにある。		・ミルハスは開館から 3 年が経過し、施設や設備点検などのメンテナンス日も増加するなかで、利用者数や稼働率を高水準に維持していく必要がある。今後も適切かつ効率的に管理運営するとともに、施設の特性を最大限に P R し、質の高く集客力のある公演等を開催・誘致していく。	
施策の方向性② 文化芸術活動の促進と次代を担う人材の確保・育成			
なし		【文化振興課】	
		＜主な取組内容＞ ・文化芸術活動の顕彰や音楽・美術・文芸分野での公募型事業の開催等により、文化芸術活動への機運を高めていく。また、若者が文化芸術活動に参加できる環境の整備を進め、文化芸術活動の担い手となる人材の育成を図る。	
施策の方向性③ 文化芸術を通じた交流人口・関係人口の拡大			
◆外部専門家との交流促進		【文化振興課】	
・県外や海外のクリエイターを招き、地元の人々と一緒に創作活動やワークショップを行うことで、市民や県民が秋田に対する新しい視点や価値観、得意なこと（特性）を認識する機会を作るべきだ。		・県内の文化団体等が行う芸術性に富んだ特色ある取組や交流人口の拡大に資する取組等に助成しており、いわゆるアーティスト・イン・レジデンスに関する取組も対象としている。また、東京芸術大学等と連携し、小中高生等を対象とした音楽や美術分野でのアウトリーチを通じて、文化芸術を担う若手の育成を図っている。引き続き、専門的な技術や知見を有するアーティストやクリエイター等と県民がともに活動する機会を創出していく。	

発言要旨		県での取組状況、今後の方針	
第1回部会で委員からの発言があった方向性	→	発言に関連する取組の状況や今後の方針を記載しています。	
第1回部会で委員からの発言がなかった方向性	→	参考情報として、主な取組内容を記載しています。	
目指す姿4：活気あふれる「スポーツ立県あきた」の実現			
施策の方向性① ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の促進			
◆スポーツ実施率の向上		【スポーツ振興課】	
・市町村の人口規模によってスポーツへの取り組みに温度差があるため、県がリーダーシップをとり、住んでいる市町村に関わらず、県内全体の人々がスポーツに関われるような情報発信や取り組みを推進するべきである。		・いつでも・どこでも・だれでもスポーツに取り組める環境づくりを進めるため、様々な動画のプログラムを作成している。今後は、動画のPRを一層強化するとともに、市町村とも連携し、ニーズに合った内容を研究していく。 また、運動アプリを活用し、県民が居住地に関わらず参加できるスポーツイベントの実施についても研究してまいりたい。	
施策の方向性② スポーツを通じた地域づくりと交流人口・関係人口の拡大			
◆トップスポーツ興行やスポーツ大会等を通じた交流人口の拡大		【スポーツ振興課】	
・ブラウブリッツ秋田やノーザンハピネッツのようなトップスポーツチームの活躍は、地域の子供たちの目標や秋田県の将来への道標になる。スポーツ大会では、秋田の文化や食をスポーツと一緒に効果的にPRするべきだ。		・スポーツのすそ野拡大及び競技力向上を図るため、トップスポーツチームが実施する学校訪問やスポーツ教室開催等の取組を支援している。 また、チームを活用した本県のPRに加え県外からの誘客を期待できる大規模スポーツ大会・イベントでは、秋田の文化や食といった地域資源を積極的にアピールすることを開催支援の要件としている。	
施策の方向性③ 全国・世界で活躍できるアスリートの発掘と育成・強化			
◆スポーツの裾野拡大		【スポーツ振興課】	
・「小中学生を対象としたスポーツの裾野拡大」だけでなく、幼少期からの身体づくり、栄養摂取、年代に合った指導方法、そして指導者の育成といった要素も不可欠である。そのため、幼稚園に入った頃からそうした取り組みを進め、より広い視点で捉える必要がある。		・就学前教育・保育施設への訪問指導を通じて、「幼児期運動指針」に基づいた身体を動かす楽しさを体験できる指導の充実及び、食育を通じた望ましい生活習慣の習得を推奨している。また、総合型クラブやスポーツ推進委員等を対象に「ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）」等の研修会を実施するなどし、幼児期からの運動機会拡充を図っていく。	
施策の方向性④ スポーツ活動を支える人材の育成と環境の整備			
◆地域のスポーツ活動の活性化		【スポーツ振興課】	
・県は市町村へ働きかけ、活動場所の確保に向けてより手厚い支援や情報発信をしてほしい。		・スポーツの「する・みる・ささえる」といった多様なニーズにワンストップで対応できるWEBサイトを構築するため、県内市町村と連携し、情報の集約と迅速な更新ができる体制を目指してまいりたい。また、県有体育施設の電子申請による予約受付システムの整備を推進し、利用者が空き状況の確認から予約手続きまで効率的に行える環境を整理してまいりたい。	
・指導者側の高齢化が進んでいるため、県全体として、地域でのボランティアスポーツを推進していくべきである。		・県の調査結果から、ボランティアをしてみたいと思う方が一定数いるにも関わらず、ボランティア募集情報の認知度が低いという課題が明らかになった。この課題を解決するため、ボランティア募集情報を一元的に集約し、誰もが容易に情報を確認できるWEBサイトを構築し、広く周知することで、ボランティアのミスマッチ解消に努めてまいりたい。	
・（再掲）指導する側の高齢化が進んでいるため、県全体として、地域でのボランティアスポーツを推進していくべきである。		・県の調査結果から、ボランティアをしてみたいと思う方が一定数いるにも関わらず、ボランティア募集情報の認知度が低いという課題が明らかになった。この課題を解決するため、ボランティア募集情報を一元的に集約し、誰もが容易に情報を確認できるWEBサイトを構築し、広く周知することで、ボランティアのミスマッチ解消に努めてまいりたい。	

発言要旨		県での取組状況、今後の方針	
第1回部会で委員からの発言があった方向性	→	発言に関連する取組の状況や今後の方針を記載しています。	
第1回部会で委員からの発言がなかった方向性	→	参考情報として、主な取組内容を記載しています。	
目指す姿5：国内外との交流と住民の暮らしを支える交通ネットワークの構築			
施策の方向性① 幹線鉄道の整備の促進とフェリー航路の維持・拡充		【交通政策課】 （幹線鉄道） ・新仙岩トンネル整備計画の早期実現を目指し、地元期成同盟会とともに整備促進大会を開催したほか、国等への要望活動など機運醸成に向けた取組を実施している。 ・令和6年3月に締結した「秋田新幹線と沿線地域の持続的発展プロジェクトに関する連携協定」のもと、プロジェクトチームにおいて策定したアクションプランに基づき、今年度から3か年にわたり、沿線地域の活性化に向けた具体的な取組を実施していく。 （フェリー） ・秋田航路を利用する旅行商品（イン・アウト双方向）を造成する旅行事業者に対し支援を実施している。 ・秋田航路を利用して新たな貨物を輸送、又は他の輸送手段から変更しフェリーを利用して貨物を輸送する事業者に対し、輸送経費を助成している。	
施策の方向性② 航空路線の維持・拡充		【交通政策課】、【誘客推進課】 ・航空会社と連携した運賃割引によるターゲット型利用促進事業や、インフルエンサーを活用した観光PR、旅行会社に対する旅行商品造成支援のほか、西日本をはじめとした乗継先空港・自治体と連携して相互誘客活動を実施するなど、引き続き利便性等の周知、需要喚起を図っていく。 ・秋田空港内に通訳兼案内担当を配置し施設案内・誘導を行っているほか、施設案内や二次交通案内看板の表示を分かりやすくすることで、台湾人旅行者の満足度の向上を図ることとしているほか、台湾便の運航が今後も継続されるよう、誘客に繋がるコンテンツの磨き上げに引き続き取り組んでいく。	
・秋田空港と大館能代空港の利便性を周知し、需要喚起を図る必要がある。特に秋田空港については、チャーター便を定期便に繋げるような中長期的な絵を描き、整備を推進すべきでないか。		・コーディネーターによる情報発信やフォロワー獲得に取り組み、県内外へのPRを図ったほか、秋田犬によるお出迎えや滑走路での星空鑑賞イベント開催等により空港の認知度向上のための情報発信を行っている。また、空港ファンクラブ会員限定のイベント開催や特典により、会員増加を目指しつつ情報発信をさらに強化していく。	
・大館能代空港について、昨年度初めて利用し利便性を認知した。割引やキャンペーン等がない状況においても、認知度向上に向け発信を強化する必要がある。			

